



OKAYAMA Y'S MEN

NO.11

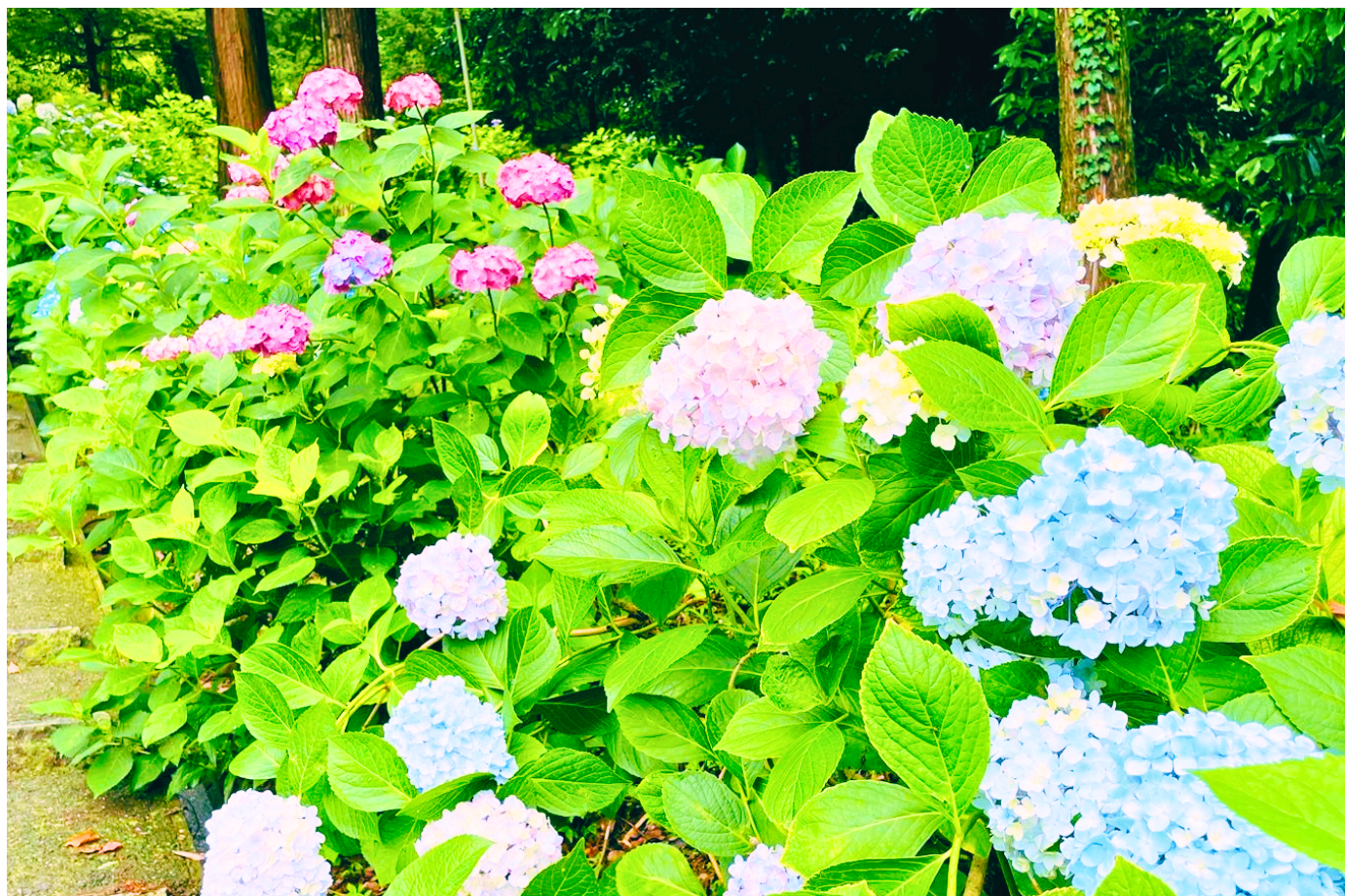


後楽園の田んぼ



THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUBS

REGION ワイズメンズクラブ国際協会西日本区
JAPAN WEST



CONTENTS

PAGE 3

私とYMCA

YMCAせとうちの副総主事、白鳥雅人さん。倉敷市自然の家の館長です。

PAGE 4-6

5月例会報告

安彦恵里香さんによる素敵なお話。
アーカイブ動画のQRコード付きです

PAGE 7-12

YMCAニュース

リーダーや職員の研修会、高齢者フォーラム、会員協議会の報告です。

PAGE 13

のぶちゃんの聖書のお話

YMCAせとうちの協力牧師である延藤好英さんのエッセイ。

私とYMCA

白鳥雅人さん

私とYMCAの最初の出会いは大学のキャンパス内でした。こどもたちのキャンプをやっているキリスト教の団体(?)と言う曖昧な認識しかありませんでした。当時、少林寺拳法部という武道系の部活に入っていた私は、新入リーダーを募集するために、ギターやタンバリンを使って、歌を歌っている5〜6名の学生を見かけて「楽しそうだけど関わらないでおこう。」と思っていました。

しかしそれから数年が経ち、就職を意識するようになって、2度目の出会いがありました。それは全く偶然で、「キリスト教に触れている職場」を探していた私は、キリスト教系の新聞広告でYMCAが職員の募集をしていることを知りました。その頃はまだインターネットもなく、YMCAについてあまりよく知らない状態でしたが、岡山近辺のいくつかのYMCAに手紙を書き、職員採用の問い合わせをしました。その中には、当時の岡山YMCA（現在のYMCAせとうちのこと）をはじめ姫路YMCAや神戸YMCA、松山YMCAなどもありました。次々に封書が届き、中を開けてみると、A4サイズのコピー用紙にきれいに印刷された文字で採用予定の有無が書かれてありました。その中で岡山YMCAだけは、当時の米良総主事による直筆の葉書が送られてきました。それがとても新鮮に思えた私は、すぐに連絡をし、それがきっかけで入職することになりました。

1992年4月から岡山YMCA採用。しかし1年目は神戸YMCA西宮ランチで予備校を担当。翌年から岡山YMCA勤務となりました。

それ以降、野外教育や幼児教育を担当させていただくと同時に、大学生リーダー会の担当をさせていただきました。そして2022年4月からは、PFI方式で運営を担わせていただくようになった倉敷市自然の家に軸足を置いています。その間も約10年間、毎年インドネシアにユースと共に行かせていただく機会をいただいたり、北米研修に行かせていただいたり、様々な経験をさせていただきました。これまでにYMCAで経験させていただいたことを糧に、今度は誰かを支えていける存在になれるように精進していきたいと思います



5月第2例会の報告



ハチドリ舎のつくりかた

～あなたにもできる、場所づくりのイロハ。

と き：5月27日（火） 19時～20時50分

ところ：ミュージックバー OMS

出席者：リアル ワイズ 12名・ゲスト 9名・配信員 2名・合計：23名

配 信 ワイズ 3名・その他 5名 ・合計： 8名

総合計 31名

講演者：安彦恵里香さん 「Social Book Cafe ハチドリ舎」店主。広島市の平和記念公園から徒歩3分。古い雑居ビルの2階の窓には毎夜遅くまで明かりがともる。核問題、差別と人権、ジェンダー不平等……多様な社会課題を扱うイベントを月に30本続けるソーシャルブックカフェが「ハチドリ舎」です。





●「まじめな話ができる場」を創る。

広島で「ソーシャルブックカフェ ハチドリ舎」を営む安彦恵里香さんが登壇された。冒頭、会場にはZOOMでの参加者も含め、全国から関心ある人々が集まった。岡山ユニセフ協会の職員さんや、被爆二世三世の会の方など、多彩な顔ぶれがそろい、報告への期待が膨らんだ。

安彦さんは、茨城県出身。24歳でピースボートに乗船し、世界各地を巡る中でパレスチナ人の体験と優しさに触れ、「自分にも何かできることがあるのでは」と社会活動への想いを深めていった。帰国後はスタッフとして活動も、組織にとどまらず「個人の場を持つこと」の必要性を感じ、広島への移住を決意する。

2017年、ハチドリ舎は広島平和記念公園近くにオープンした。もともとはタバコのヤニで天井が変色し、窓の鍵も壊れていた元雀荘の物件だったが、DIYとクラウドファンディング、そして全国の支援者から寄せられた封筒入りのカンパにより蘇った。講演では当時の窓の状態や、換気扇の設置に苦労した様子を笑いを交えて語り、会場からは共感と感嘆の声が漏れた。

「“真面目な話をしても引かれない場所”を作れたかっただです」と語る安彦さん。現在、ハチドリ舎では、被爆証言の会や性教育、フェミニズム、NVC（非暴力コミュニケーション）、さらには化学香料の害について考える「無香料の日」のイベントまで、年間2500本以上の多様な企画を実施。参加者には、外国人観光客や修学旅行生、地元の常連客などが混ざり合う。



会場からの「ふらっと立ち寄ることができるのか？」という質問に、「もちろん。六のつく日には被爆証言が聴けて、カレーも食べられます」とにっこり。店の看板メニューは、地元産食材を用いた8種のスパイスカレー。辛すぎず、体に優しい味わいが人気とのこと。

最後に安彦さんは、「私には経験も資金もなかった。でも“やりたい”という気持ちと、小さな協力の積み重ねでここまで来られた。誰でも、自分のハチドリ舎を始められる」と語った。会場には熱心にメモを取る姿が多く見られ、終了後には安彦さんの著書が飛ぶように売れていた。

社会と人、人と人をつなぐ“駆け込み寺”としてのブックカフェ。そこには、共に生きる希望の種が、確かに芽吹いているように感じられた講演であった。

以下、オンライン参加者からの感想です。

大変ポジティブでスマートでクールな内容で刺激になりました。ありがとうございます。特に広島で被爆の話題をいろいろの年代層の方、外国の方と話す場があるのは喜ばしいことです。

昨今一国民の意識として、戦争が起きている国、起きそうなところが増える中、日本は此れだけ永く、平和が保たれてきたのですから、国民全体としても広島のことを薄れることのなきよう、特に政治家、もっと広島に学ぶ姿勢を、感覚を身に付けて欲しいと思いました。インドからガンジーの胸像が贈られてるのも知っているのかしら？

ワイズメンズクラブでも今日の話のような問題をみんなで考えながら行う例会とかあるといいなと思いました。

○例会終了後の宴と翌日の学び

実は講師の安彦さんは、広島からお出でいただきました。夜の講演会ということで、宿泊は必至でした。しかも、安彦さん、ハチドリ舎では「スナック恵里香」を店開きするほどの大のアルコール党とのことでしたので、今回はぜひ充実した2次会をと計画しておりました。

結果、OMSのご厚意により、たこ焼きやひまわりの種をご提供いただいたおかげで、アルコールはどんどん進みます。終盤には生演奏のリクエストもあり、安彦さんはもちろんのこと、初参加のHさんも演歌を熱唱、しかも両者共大変素晴らしい歌い手でした。聴けばHさん「私の夢はリサイタルを開くこと」と言うので、「それでは叶えましょうよ」と、その場で7月7日七夕ライブ開催が決定しました。この日YMCAは理事会が開催されますので、8時30分に会を閉じて、ぜひその会に合流しようということになりました。ワイズのみなさんも是非とも万障繰り合わせの上、ご参加ください。なんともうれしく楽しい2次会でした。

○翌日は、長島愛生園見学ツアー

翌日は安彦さんからのリクエストで長島愛生園に行きました。参加者は安彦さん、佐藤さん、太田に加えて、広島YMCAの国際リーダーであり、現在早島町在住のおかもんリーダー。今回始めて例会に参加してくれ、たまたま翌日も時間があるとのことでしたので、お誘いしたところ、ご参加いただけました。私以外の方々は、みな長島が初めてということで、食い入るように資料館の展示に見入っていました。

今回はフィールドトリップも合わせて行い、収容桟橋や十坪住宅、収容所跡地などにもリアルに触れることができました。大きな成果となったのは、昨年オープンした、島内にある宿泊研修施設を訪れることができたことです。次年度の例会で使用させていただくこともできそうなので、ぜひみなで行きましょう。そしてこの負の歴史を心に刻み、2度と同じような間違いを犯すことのないように学びを深めたいと願います。



YMCAニュース

①座学ユースリーダー研修会報告

と き：2025年5月25日（日）

ところ：YMCAせとうち本館

内 容：

今年度も、座学のリーダートレーニングを実施しました。今回は、リーダー約40名のなかで、18名が新入リーダーでした。今回は、講師のジュニアサッカー指導者の池上正さんをお迎えし、「こども理解」について学ぶ時間を持ちました。リーダーたちも、スタッフたちも、大きな学びの時間となり、それを自分で実践するにはどうしたらいいのか、と改めて立ち返ることのできるきっかけをもらいました。また、リーダーOP3名に来てもらい、それぞれ、YMCAでの経験が、今の自分にどうつながっているのか、ということそれぞれの視点で話をしてもらい、リーダーたちにとって、とても前向きになる時間を作ってもらいました。1日講義が続いたので疲労もありましたが、最後の時間まで、リーダーたちは学ぶ姿勢を崩さず頑張っていました。今後の野外活動やキャンプで、今回の学びがこどもたちに還元されて行くことが楽しみです。



②野外教育担当職員研修会を実施。

と き：2025年5月3日（土）～5日（月）

ところ：真庭郡新庄村周辺（田波キャンプ場、毛無山等）



内 容：

今年度のゴールデンウィークは、こどもたち対象のキャンプを実施せず、野外スタッフの研修会を実施しました。今回は、それぞれが救急法、YMCA理解、リーダーシップ等の講義を実施し、ティーチングする時間を持ち、スタッフ内でトレーニングを積み重ねていきました。

まずは、新庄村の道の駅から、歩いて田波キャンプ場を目指します。それぞれが20kgのザックを担ぎ、8kmの道のりを歩いていきます。研修の中では、山登りをしたり、それぞれが礼拝を担当したり、盛りだくさんの3日間でした。

手探りの中で始まったトレーニングでしたが、特に若いスタッフにとってはこの3日間はとても意味のある時間となったと思います。このチームで野外活動、キャンプをやっていくことがより楽しみな時間にもなりました。

スタッフたちを送り出してくれた仲間たちや、支援をしてくださったワイズの方々に、深く感謝いたします。



③フォーラム「終わりの日まで、いきいきと」開催。



と き：5月11日（日）13時30分～16時 ところ：日本キリスト教団岡山信愛教会
主 催：岡山信愛教会・YMCAせとうち・岡山ワイズメンズクラブ

序：命と老いの現場に身を置く私たちへ

2025年5月、岡山信愛教会の礼拝堂に、介護や医療の現場で働く人、教会やYMCAに関わる人、地域の家族たちが静かに集った。テーマは「超高齢化社会と私たち」。サブタイトルには、「終わりの日まで、生き生きと。」という言葉が添えられた。

この言葉の響きには、「ピンピンコロリ」とは異なる響きがある。寿命を意識する私たちにとって、老いるとはどういうことか、命の終わりをどのように迎えるのか。この問いが、信仰者・市民・家族という多様な立場の人々を結びつけた。当日は讃美歌と祈りに始まり、参加者がそれぞれ“自分の寿命”を想像しながら、命の有限性をワークショップとして体感する時間からスタートした。

基調講演「未知の力を引き出す」 登壇者：重信直人さん（大阪YMCA職員）

「人は、自分が持っている力を過小評価しているんです」。重信さんの第一声は、会場の空気をやさしく揺らした。「若者もそう、高齢者もそう。実際には、内に秘めた力はまだまだあるんです」その言葉を裏付けるように、重信さんはハワイ・シニアツアーの取り組みを紹介する。ある高齢者が「ハワイに行きたい」と口にしたとき、「もう無理だろう」「体力がない」と言われて終わるのではなく、「じゃあ行ってみよう」と背中を押し、実際に海へと連れ出した。腰までの深さの海に入って、シュノーケルをつけて魚を眺める。「魚が見える」という感動の声。「水着になるなんて…」とためらった人が、太陽の下で微笑みながら波間に揺れる。

「“今さら”じゃなく、“今だからこそ”。それが、老いを前にした人の「生き生きとした瞬間」なのだと、重信さんは語る。

続いて、会場で流されたのは、カナダで制作された1分間の映像だった。タイトルは「人生最後の10年、あなたはどう生きたいか？」（出典「The Heart and Stroke Foundation」）

椅子に座り、誰かの手を借りて着替えをする老人と、自分の足で外に出て、仲間と笑い合いながら過ごす老人——どちらも“可能性”の一つとして、並列に提示される。「介護を受けながら生きる時間を否定するものではありません。でも、それをどう選び、どう意味づけるかで、人生の終わり方は変わると思うんです」。「“どう生きたいか”という問いに、遅すぎることはない」

重信さんの話は、単なる実践報告ではなかった。高齢社会における選択の重さ、ケアの倫理、そして人間の尊厳とは何かという問いが、参加者の胸に深く沈んでいく。「健康になりましょう、というメッセージはもう響かないんです。大切なのは、“あなたはどう生きたいですか？”と、真正面から問いかけること」。その言葉の裏づけには、YMCAの現場で、長年人と人の間に生まれる「希望」に向き合い続けてきたYMCA主事としての確信があったように思えました。

リレートーク 板野ドクター（岡山ワイズ）、藤井さん（ケアマネ）、坂本さん（介護当事者）

重信さんの発表の後、しばし休憩をとり、その後リレートークを行った。立ち位置の異なる3人の方からの発表は、いずれも刺激的で学ぶべき点が多かった。板野さんは「医療とは、祈りと似ている。その人に今、必要なものを、過不足なく与えること。命の営みに寄り添い、無理強いせず、その人の歩幅に合わせて支えていくこと。それはまさに、医療の根源的な行為である」とおっしゃった。

坂本さんは「母と父は、チャプレンのいる施設で看取ることができました。聖書を読み、祈っていただいて、母が安らかに旅立てたことが、今の私にとって大きな支えになっています」と話を結ばれた。

ケアマネとして長年働いた藤井さんは「一番大事なことは、高齢者の孤立を防ぐということ」とおっしゃいました。そのためには、いいケアマネさんに出会うことがポイントだと教えてくれました。

YMCAの太田は「“終わりの日まで生き生きと”とは何か？それはピンピンコロリを是とするのではなく、手放し、弱くなっていくことを受け入れながらも、自分らしさを失わない生き方ではないか」と投げかけをし、さらに「人に迷惑をかけてはいけない」という日本の教育スタンダードが、ひとりひとりの内面に抑制をかけ、多くの高齢者がそこにとどまっていることの現実に焦点を当て「もっと互いに迷惑をかけ合える社会にしよう。自立するとは、いかに多くの依存先を持ちうるかということのはず」と呼びかけました。

最後に重人さんは、「若者と一緒に介護の未来を考える場が必要。介護職の担い手が減るなかで、どう希望を語れるかが問われている」と語り、「人生の最後をどう生きるかは、社会全体で問うべきテーマです」と結びました。



④YMCAせとうち常議員会を開催しました。



と き：5月26日（月）19時3～21時 ところ：YMCAせとうち本館 301号教室

参加者：

報 告：

YMCAせとうち経営レポートを元に、太田総主事から以下のようなポイントで現況が報告された。

①YMCAの収支改善と組織体制強化

2018年の西日本豪雨と2019年の事業撤退により財政的に厳しい状況に陥ったが、コロナ禍で選択と集中を行い、財政状況が改善した。2022年には自然の家の開設や事業の集中化により収支が大幅に改善し、2023年には認証主事が4人に増加するなど組織体制も強化された。今後は新規採用による投資的な支出増加が見込まれるが、アルムナイ採用など独自の採用戦略により組織の成長を目指している。

②再生可能エネルギー100%への切り替え

YMCAは4月1日から再生可能エネルギー100%の電力契約に切り替え、環境負荷の軽減に取り組んでいる。この取り組みにより、1ヶ月で5.5トンのCO2削減効果があり、年間約150万円のコスト削減も見込まれている。今後、西日本のYMCAでも同様の取り組みを広げる計画があり、近々発電所の見学ツアーも企画されている。

③Dxとaiの改善と採用

YMCAの会議では、代表理事の後継問題、組織内DXの加速化、決済システムの改善、生成AIの活用、上院下の活性化、そしてリーダーのリクルートについて議論されました。有明さんがDXの進捗状況を報告し、カード決済システムの導入を検討中であることが明らかになりました。また、生成AIの活用や大学の将来に関する懸念も話し合われ、組織の刷新と技術革新の重要性が強調されました。

④チャリティーゴルフイベント計画

YMCAは2025年11月13日にチャリティーゴルフイベントを計画しており、一人親家庭の支援や西日本豪雨の災害支援に充てる予定である。また、敗戦80年を機に平和について考えるプログラムを検討中で、YMCAリーダーたちに映画鑑賞や証言を聞く機会を設けることを検討している。

協議事項「YMCAせとうち大会（仮称）」を考える

常議員会を発信として、「YMCAせとうち大会（仮称）」の開催を検討した。YMCAに連なる様々な人が出会うことのできる場とするため、「どこで、どんな活動をするのが良いか？」と話し合った。「自然の家で実施をし、自然の家をYMCAせとうちのホームと感ずることのできるようなプログラム」という意見や、「表町商店街で実施をしたり、岡山県のe-sports協会とコラボをしたりすることで、より広くYMCAについて知ってもらうことのできる活動」といった案が出された。現在、2026年2月11日(水/休)に実施予定である。



のぶちゃんの「聖書のおはなし」

第10回 「日々のディボーション」

『主よ、どうしたらよいでしょうか』と申しますと、主は、『立ち上がってダマスコへ行け。しなければならないことは、すべてそこで知らされる』と言われました。」

(使徒言行録22章10節)

神さまの御心を知る方法として①日々のディボーション、②週ごとの礼拝と祈祷会、③年に数回のリトリートや修養会があることを前回紹介しました。今日はその中のディボーションの時間の中で、わたし自身が示されたことをお話ししたいと思います。

1998年に、名古屋から和氣に帰ることを示されました。その時、わたしにはいくつかの不安がありました。①今いるこの教会はどうなるのですか？②和氣に帰って何をするのですか？③経済的にはどうなるのでしょうか？④それはいつのことですか？その一つ一つの問いかけに、神さまはディボーションの中で、御言葉をもって応えてくださいました。

今日はその中の②についてお話します。

「和氣に帰って何をするのですか？」という問いに対して、ディボーションの中で使徒言行録22章10節が示されました。『主よ、どうしたらよいでしょうか』と申しますと、主は、『立ち上がってダマスコへ行け。しなければならないことは、すべてそこで知らされる』と言われました」これは使徒パウロがイエス様の弟子とされた時の召命の記事です。

この「立ち上がってダマスコへ行け」が、わたしには「立ち上がって和氣に帰れ」に聞こえました。選択を迫られる御言葉でした。「神さまの御言葉に従いましょう」と常々語っている者としては、「今いる教会に残るか和氣に帰るか」の選択ではなく「牧師を辞めるか、和氣に帰るか」の選択でした。わたしは和氣に帰る選択をしました。1999年のことでした。

そして、2011年3月11日がやってきました、東日本大震災です。原発事故を伴いました。多くの母子が健康不安を感じ西日本への避難を考えました。けれども迎えてくれる場所がありません。わたしは以前からお借りしていた牧師館向かいの古民家を、避難してくる母子を迎える場所にできないかと考えました。多くの人の力添えによりそのことが実現し、2011年7月にシェアハウス「やすらぎの泉」をオープンさせることができました。その一年後には別館、更に一年後には3号館をオープンしました。

9年間の活動の中で180組の母子を迎えることができました。神さまはこのことのために前もってわたしを和氣に転居させていたのか。これがあの「しなければならないこと」なのかと思われました。その後西日本豪雨災害もありました。今こうして「YMCAせとうち」であなたと出会っているのも「しなければならないこと」の一つに違いありません。

他にもたくさんの「しなければならないこと」に出会ってきました。それらはわたしが願っていたことではありませんが、それに関わってよかったなと思うことばかりです。神さまは不思議な方法でわたしたちを導いてくださっています。これを読んでくださっているあなたにも神さまは特別な「しなければならないこと」プランを持っておられることでしょう。神さまの御心を尋ねる静かな祈りの時間（ディボーション）を持たれることをあなたにもお勧めします。





ワイズメンズクラブ国際協会
第28回
西日本区大会

Y'S SLOGANS

岡山クラブ 会長 石原康正

○YMCAと共に楽しくワイズ活動！ Let's enjoy Y's Lives with YMCA.

瀬戸山陰部 部長 長壽和子（岡山クラブ）

○チーム瀬戸山陰 どうなるか？ではなく、どうするかを考えよう。

～さあ、動こう！ 自働・共働～

Let us not just worry about the future, but think about what we should do.

～Let's take action together with our friends in the Seto-San'in region!

西日本区 理事 鵜丹谷剛（神戸クラブ）

○つなげよう地域と世界、YMCAと共に Connecting Local to the World with YMCA

○楽しもうフェロウシップをポジティブに Enjoy positively our fellowship

アジア太平洋地域 会長 Joan Wong

○大きなインパクトを起こそう

Make a Great Impact

○大胆に、信念をもって奉仕しよう

Be Bold and Serve by Faith

国際協会 会長 Charming Shen

○太陽の輝きと笑顔

Sunshine and Smile

○簡潔さは美

Simple is Beauty



2025

6.14 sat.

SMILE. IMPACT. CONNECT.

■ 会場 ANA クラウンプラザホテル神戸

ホストクラブ：神戸クラブ・西宮クラブ・神戸西クラブ・神戸ポートクラブ・宝塚クラブ・神戸学園都市クラブ・芦屋クラブ